



特定失踪者

ふるいちみずこ

古都瑞子さん

1977(昭和52)年11月14日

米子市内で失踪

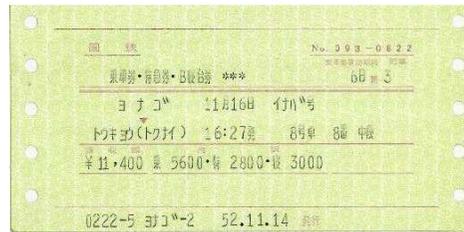
(当時47歳、日南町出身)

失踪時の状況 ー特定失踪者問題調査会の調査よりー

- ・1977(昭和52)年11月14日午後9時頃、旅館で仕事を終え一時帰宅。その後、普段着に着替えて出かけるが帰らず、そのまま行方不明となる。

失踪に係る不審な点

- ・自宅には、近く東京へ行く切符、ハンドバッグ、現金、常に持ち歩くポケベルも置いたままだった。
- ・当時、自殺や失踪する理由はなかった。
- ・失踪した日は、横田めぐみさんが失踪した前日。



<自宅に残された東京行きのJR乗車券>

古都さんは歌や踊りにたけていた

- ・北朝鮮で踊り子をしていた脱北者 ^{キム・ソンエ}金聖愛氏の証言が報道されている。

「最初に会ったのは、1990(平成2)年。清津の『外貨食堂』で行った私の結婚式で、歌と踊りを披露してくれた。踊りは日本の伝統的なものだった。とても上手だった。その時、日本製の時計をもらったのを覚えている。身長は150~160cm(古都さんは148cm)で、当時60歳くらいだった。



<左：のど自慢で民謡を披露する古都さん、右：合格证>

最後に会ったのは2002(平成14)年2月ごろ。その頃も姑の自宅の前に住んでいた。

(週刊誌「フライデー」
2004年1月23日号より要約)

あれから5年 ー古都瑞子さんの弟 ^{しろう}資郎さんー

2002(平成14)年10月、小泉総理(当時)が北朝鮮を訪問し、拉致されていた蓮池夫妻、地村夫妻、曾我ひとみさんの5人が祖国の土を踏まれ、日本中が沸いた日を忘れない。

その年の11月、私が県の人権局に設置された相談窓口に実状を訴えてから、5年の年月が経過した。その間も、北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会、特定失踪者問題調査会、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会、そして国や地方の関係機関による、拉致被害者を救出するさまざまな動きが展開され、多くの国民の皆さんのご理解と支援の輪を広げていただいた。

県内でもいろいろな集会などで、その支援の輪を広げていただいたことに感謝している。

また、政府関係者のご努力により、先に帰国された被害者5人のご家族も帰ってこられました。

現在、17名の被害者が政府認定されたことは大きな成果だと思います。しかし、この17名の方々についてさえ、北朝鮮は認めたわけではありません。

日本政府による度重なる外交努力、経済制裁、あらゆる機会を通しての国際的な取組など、いろいろ尽くしていただけていますが、北朝鮮の「拉致問題はすでに解決済み」とする厚い壁を破ることができなくて非常に腹立たしい気持ちです。

これから5年は待てない

消えた277人*。

これから5年でどれだけ進展するのか不安だ。拉致被害者も、そして特定失踪者と私たち家族も年々高齢となっています。

一刻も早く北朝鮮にすべての被害者の拉致を認めさせ、一日も早くすべての被害者が帰国できるよう知恵と努力を傾注してほしい。今までの経過から見て、難しい問題と思いますが、あらゆる外交努力、手法を駆使して遅くともこの5年以内には、全面解決してほしい。

この5年以内に実現しなければ、永久に解決しないのでは、と不安の気持ちです。関係者の皆さん、どうかよろしくお願いします。

*『消えた277人』(2007年5月、毎日ワNZ/出版)



帰国を待ちわびて



ふるいちみずこ
古都瑞子さん

北朝鮮に拉致された可能性があると考えられている鳥取県出身者は、政府認定拉致被害者の松本京子さん以外にも何人かいらっしゃいます。そのお一人が日南町出身の古都 瑞子さんです。

今号では瑞子さんの弟さんで、日南町の実家にお住まいの古都 資朗さんに日南町役場でお話をお聞きしました。



ふるいち
古都
しろう
資朗さん

⇒ 積極派だった姉

姉とは4つ違いです。子どもの頃は積極的でリーダーシップを発揮し、まとめ役になることが多くありました。歌が得意でしたが、戦前なので家で歌うことはあまりありませんでした。

姉は根雨の女学校(当時)に進学して、卒業後は米子市で事務関係の仕事につきました。

⇒ いなくなった頃

姉は米子市内に住み、多忙でしたので、たまに実家に帰ってくることがあるくらいでした。その頃には旅館などで踊りや唄を披露するグループを作り、姉が依頼を受ける窓口でした。

当時「洋子」と芸名で名のって、名刺も洋子で作っていました。拉致被害者等のポスターやパネルに2つの名前が記載されているのはそのためです。

姉は一人暮らしでしたが、旅館などからの連絡を受けるためにお手伝いの女性の方に来てもらっていました。行方不明になったとの連絡はその方からです。当初は連絡がないだけで戻ってくるのでは」と思われたようで、実家に連絡があったのは2、3日後でした。

⇒ 突然の失踪

その方から、旅館から帰って踊りの衣装から普段着に着替えて出かけたらしい、と聞きました。いなくなったのは1977(昭和52)年11月14日です。年末年始を控えて多くの旅館に出演の約束をしていたので、おことわりの電話をしてまわりました。

その頃、鼻の調子が悪かったと記憶していますが、そのため東京で検査を受ける予定でした。16日の寝台列車を予約していましたが、切符はそのまま姉の家に残されていました。

警察にも了解を得て、親戚の協力を得て姉の行方を探しました。母は心配だったはずですが、警察や親戚とのやりとりの時などは、気丈に振る舞っていました。

⇒ 捜索は親戚が協力

母の兄弟を始め親戚が協力してくれて、時には十数人で探したこともあります。「この川あたりにいるのではないか」と言われて川の周辺を探したり、殺されて埋められているのではと考えて、こんもりとした所を掘り返したりしました。今思うと全く無駄なことでした。

母は当時70歳に近く、姉を探しに出ることはできませんので、お茶や食事の準備などをして親戚が戻ってくるのを待っていました。

⇒ 報道がきっかけに

2002(平成14)年、小泉総理(当時)が北朝鮮を訪問してニュースになりました。新聞で拉致被害者のことが大きく報道され、その中で横田めぐみさんの事件もありました。横田さんが拉致されたのは1977(昭和52)年11月15日で、それを見てピンとききました。姉がいなくなった日と1日違いです。

県の人権局・県議会等に連絡して様々な手続きを取り、警察も拉致事件として再捜査に乗り出しました。週刊誌に記事が載ったこともあります。



特定失踪者問題調査会が作成しているポスターより。失踪日の順で掲載されていて、横田めぐみさんの隣が古都瑞子さんです。

⇒ 国への思い

家では姉のことは話しません。母も口には出しませんが、もう105歳です。早く帰ってきてもらいたいと思っ

ているはず。姉は健在なら83歳になります。姉が一日も早く帰国できるよう全力を尽くしてほしいと思います。

※古都さんのお母様は、平成26年12月に御逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます

本稿の取材にあたり、古都資朗様並びに日南町役場の御協力をいただきました。